



学校だより

調布市立調和小学校
校長 横山 公一
令和4年11月30日

HP: <http://www.chofu-schools.jp/chowa-sho>

Mail: chowa-sho@chofu-schools.jp

Footballを観ると考える

⊗ 展覧会という名の秋の祭りと同様、中東のカタールでは4年に一度のフットボールの祭典が開幕しました。この文を書く今は、ジャパンチーム第二試合目の結果をまだ私は知りませんが、先月、強国ドイツを一蹴した時なぞ、夜の街のあちこちに小躍りした人たちがいて、それはそれでびっくりさせられました。ジャパンの国際大会という、これまた恒例になりつつあるサポーターのごみ拾いに注目が集まりますね。身の回りのごみを拾って捨てるなどということは、私たちには当たり前で、さほど気にもならぬことでも、海外の方たちには素晴らしい善行と映るようで、この行動を美德とたたえる記事や報道を頻繁に目にします。そこまで言われると、なんだかこそばゆい感じです。ただその一方で、いやいやその見方は一面的であって、現地の様々な事情や背景を考える必要もあろうと、国内外発の批判的な立場からの論調もあったりもし、そうか、そうなってくると、自分はいったいどのあたりに価値の立ち位置を据えればよいのやら、逡巡してしまうことも発生してきます。

⊗ 話が変わりますが、学生の頃私は地域の少年サッカーチームでOBコーチとして指導にあたっていました。当時は今のようにプロへの道こそありませんでしたが、競技熱は現在同様、かなりのものでした。練習に次ぐ練習、休みの日は都内、近県の有名チームに胸を借りての練習試合、夏休みは合宿に地方遠征にと、そのような鍛え方をしていましたから、選手たちは技術面、勝負の面でも充実していたと思います。

⊗ あるとき、海外数か国の少年チームとの交流大会に参加する機会がありました。試合自体は負けたり勝ったりでしたが、内容では互角に渡り合えたことに満足感を得ながら私は、夜にもたれた指導者同士の交流会に臨みました。時には通訳が混じって互いの健闘をたたえ合い、サッカーの話を熱中し、それは愉快な時間でした。ところがその席上、対戦したドイツ人のコーチからこんなことを言われたのです。

「良い試合でしたね。あなたのチームは個人の技術も素晴らしい。でもね、選手にしっかりとルールを守らせるべきですよ。」という指摘でした。こちらがラフプレーをした記憶もなくマナーが悪かったわけでもなさそうで、心当たりが全くないので面食らっていると、

「例えばスローインやフリーキックなどでプレーを再開させる時には、審判のジャッジに忠実に、示されたその地点から再開させなければなりません。ちょっとしたことだけれど、そういった細かなルールを我々は選手に徹底していますよ。あなたたちはどうですか。」

「ワールドカップの試合などを見ても、その点はずいぶんとアバウトだと思うのですが・・・。」

「あれは、大人のプロの試合です。一緒に考えるべきではない。少年の時代に、競技の根本であるルールをきちんと身に付けさせないで、一体いつ身に付けさせるのですか？」

⊗ 現在私は教職につき、子供を指導するという点ではあの頃のチームと同じです。また同時に3人の子供の父親でもありますから、子を育てるという意味でも同じです。サッカーというフィールド上においても、人生というフィールド上においても、子供の頃でしか身につかないこと、身につかせなければならぬことがあるのだ、とフットボールを観るとふとあの時の情景とともに考えがよみがえってきます。